

令和 6 年度事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 3 1 日

事業の概要

令和 6 年度は、新型コロナウイルス収束後の経済回復が順調に推移し、公益事業も例年通りに実施することが出来た。

さて、近年のマイワシ資源量は増大傾向にあったものの、2024 年の釧路沖まき網漁獲量は 2023 年よりも減少した。水揚げされたマイワシは餌不足による成長悪化が指摘されており、今後、マイワシの資源量とともに棲息に適した海洋環境が形成されるかが気になりなところである。

当協会では魚油及び魚粉の生産状況を迅速に把握するため、(公社)日本フィッシュ・ミール協会の協力を得て、2024 年の各魚粉工場から提供される生産データをまとめる方式で調査を行った。データの詳細は後述の『2024 年 水産油脂統計年鑑』に収載するが、魚油・魚粉の生産実績の概要は下表のとおりである。

		2023年	2024年	前年比
1. 原料処理量				
ラ ウ ン ド		312,105トン	255,377トン	81.8%
残 滓		570,278トン	556,780トン	97.6%
合 計		882,383トン	812,157トン	92.0%
2. 生産量				
		歩留		
魚 油		71,859トン	64,058トン (7.9%)	89.1%
魚 粉		192,787トン	177,388トン (21.8%)	92.0%

この他、魚油等油脂に関連するデータとして、国内・国外における漁獲量、各国の魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格、植物油脂等の消費量、養殖魚及び養魚飼料の生産量等の収集を行った。また、主要港で水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、マサバの栄養成分を中心とした化学分析を(一財)日本食品分析センターに依頼し調査を行った。令和 6 年度は新たに境港に水揚げされたマイワシについても脂質調査を開始した。これらの調査データについては取りまとめを行い『2024 年 水産油脂統計年鑑』として 2025 年 5 月に刊行を予定している。

講演会のうち「水産油脂資源講演会」は例年通り 8 月に開催した。「水産油脂技術懇話会」は 6 月と 11 月に本協会新館会議室において実施した。これらは『水産油脂資源講演会記録』と『水産油脂技術懇話会記録』としてそれぞれ刊行した。また、これまで DHA・EPA 協議会と共催で実施していた「公開講演会」は、会場での開催と共にオンラインでも同時配信した。定期刊行物としては『2023 年 水産油脂統計年鑑』と関心の高いテーマなどを取り上げた『JMOA レポート』および『魚粉の脂質組成調査 I』を刊行した。ホームページは重要な情報発信のツールとして随時更新した。

1. 調査研究

1) 国内外の水産油脂及び関連する物資の資源・生産・流通・消費等についての調査

- ① (公社)日本フィッシュ・ミール協会に 2024 年における国内の原料処理量、魚油・魚粉の生産量・用途について調査を依頼した。
- ② 国内外の資料を収集し漁獲量、魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格を調査した。また、魚油・魚粉の消費と関わりのある配合飼料生産量や水産養殖等のデータを取りまとめた。

2) 水産油脂及び関連物資の機能・性状及び加工利用等に関する調査研究

- ① 銚子港（千葉県）に水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、マサバ並びに釧路港（北海道）に水揚げされたマイワシについて一般成分、脂肪酸組成等の脂質成分を分析した。また、新たに 11 月からは境港に水揚げされたマイワシについても調査を実施した。
- ② 国産・輸入魚油の性状及び脂肪酸組成等について分析した。また、国産・輸入魚粉についても基礎成分をはじめアミノ酸組成等を分析した。
- ③ 魚粉のリン脂質等に重点をおき新たに脂質組成調査を実施した。

2. 広報出版

1) 講演会等の開催

- ① 水産油脂の資源及び流通に関する講演会

2024 年 8 月 28 日、「令和 6 年度水産油脂資源講演会」を渋谷区文化総合センター大和田伝承ホールにて開催した。

【演題及び講師】

「養殖業成長産業化の推進について」

水産庁 増殖推進部 栽培養殖課 養殖指導班

経営指導係長 宮奥 昂次 先生

「マイワシ対馬暖流系群の資源動向

およびマイワシ太平洋系群との比較について」

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所

水産資源研究センター 浮魚資源部 浮魚第 4 グループ

主任研究員 向 草世香 先生

「地球温暖化で魚類の分布、季節性、サイズは変化するのか」

東京大学大気海洋研究所 海洋生物資源学部門

教授 伊藤 進一 先生

【情報交換会】

資源講演会終了後、講師の先生にも出席していただき参加者との情報交換会を実施した。

- ② 水産油脂及び関連物質等の研究・開発に関するセミナー

「水産油脂技術懇話会」を当協会新館会議室において、令和 6 年 6 月 14 日と令和 6 年 11 月 8 日の 2 回開催した。

【演題及び講師】

「第 42 回水産油脂技術懇話会」

『似て非なる』食品脂質の異性体に関する研究」

名城大学 大学院総合学術研究科／理工学部 化学教室

准教授 本田 真己 先生

「第 43 回水産油脂技術懇話会」

「トリアシルグリセロール異性体分析からわかること」

東北大学 大学院農学研究科

准教授 加藤 俊治 先生

③ DHA・EPA協議会と公開講演会の共催

令和 6 年 10 月 16 日に第 25 回公開講演会を『生体ではたらく DHA・EPA—筋肉・腎臓・脳』と題して主婦会館プラザエフにて開催し、Web によるライブ配信を併用して行った。

【演題及び講師】

「脂質解析から紐解く骨格筋肥大のメカニズム解析」

日本大学 生物資源科学部 海洋生物学科

准教授 井上 菜穂子 先生

「慢性腎不全に対する多価不飽和脂肪酸の抑制効果」

城西大学 薬学部 薬科学科

准教授 片倉 賢紀 先生

「地域住民における DHA・EPA、アラキドン酸摂取量と認知機能の関連」

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 研究所

老年学・社会科学研究センター 老化疫学研究部

部長 大塚 礼 先生

2) 出版

① 『2023 年 水産油脂統計年鑑』を 5 月に刊行した。

② 『第 42 回水産油脂技術懇話会記録 「似て非なる」食品脂質の異性体に関する研究』を 8 月に刊行した。

③ 『JMOAレポートNo.28 水産養殖における伝染性疾患の発生を予防するための防疫対策について』を 10 月に刊行した。

[筆者：北海道大学大学院水産科学研究院 海洋応用生命科学部門 海洋生物工学分野 教授 笠井 久会 氏／助教 永田 淳 氏]

④ 『令和 6 年度水産油脂資源講演会記録』を 11 月に刊行した。

⑤ 『第 43 回水産油脂技術懇話会記録 トリアシルグリセロール異性体分析からわかること』を 2 月に刊行した。

⑥ 前頁 1. 調査研究の 2) ③に記載した魚粉の脂質組成調査を『魚粉の脂質組成調査 I』として 3 月に刊行した。

[一般財団法人日本水産油脂協会 編]

3) ホームページ

- ① 講演会の開催及び出版物の発刊の案内を随時掲載した。
- ② 「魚油・魚粉の貿易統計」は魚油・魚粉の輸入量・価格などを毎月更新した。
- ③ 定期的にアクセス数をモニターした。総アクセス数は10万台に達し、「知っておきたい基礎知識」も大幅に増加した。

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
総アクセス	106,245	73,994	57,552	67,924
知っておきたい基礎知識	29,422	17,300	13,698	19,962

3. 土地・建物施設等の賃貸及びその維持・管理

- ① 本館及び新館を公益法人に賃貸し管理・運営を行った。
- ② 本館塔屋鉄扉の修理を実施。
- ③ 新館シャッター障害物検知装置・電動開閉機の交換工事を実施。
- ④ 新館トイレ小便器交換工事を実施。

4. その他、本会の目的を達成するに必要な事業

- ① DHA・EPA協議会の事務局を当会館内に置き、同協議会の活動の支援、協力を行った。
- ② (公社)日本油化学会・規格試験法委員会へ基準油脂分析試験法の見直し等のためアドバイザーとして派遣した。
- ③ SMILE(会員管理システム)のバージョンアップとデータ移行を実施。
- ④ 資金運用規程及び資金運用指針に従い資金運用を行い、利金総額利回り等は目標値を上回った。

5. 庶務事項その他

<会議>

- ① 定時理事会 3回
- ② 定時評議員会 1回
- ③ 評議員選定委員会 1回

<その他>

- ① 内閣府に公益目的支出計画実施報告書を6月に提出した。
- ② 賛助員 20名

以 上